

2023.11.28 すばる科学諮問委員会 議事録

=====

日 時： 2023.11.28 10:00 – 15:00 JST
場 所： 各自 zoom 接続
zoom 出席者： 大栗真宗、松岡良樹、伊王野大介、伊藤洋一、植村誠、大朝由美子、
小宮山裕、佐藤文衛、下西隆、守屋堯
Zoom 陪席者： 青木和光、神戸栄治、早野裕、宮崎聡、山下卓也、
David Sanders (Director's Report only)
ゲ ス ト： 田實晃人 (13:00-13:35)
書 記： 森谷友由希

=====

=== 今回の A/I 及び議論サマリ ===

(報告事項)

宮崎所長より観測所の状況について以下の報告があった。

- 望遠鏡の運用停止について第 4 報が公開された
 - ◇ 観測は 2024 年 1 月 17 日までキャンセルとなった
 - ◇ 業者と修理計画を議論しているが、ダウンタイム期間をなるべく短縮できるように試みている
- TUE のメンテナンスは予定通りに進んでいる
- 最後の近赤外カメラを除くすべての PFS 装置がインストールされた。装置性能を回復するための分光器の修正も行われた
- S24A 期では、(主鏡修理は別として) ダウンタイムを伴うメンテナンス作業はない予定。PFS の試験観測に 24 夜を割り当てる

【議論】

- Rubin/LSST PI/JA 公募開始が報告された。PI と JA の資格に関する質問が届いている。極端な場合を除いては柔軟に対応する。
 - 12/19 が締め切りで、次回の SAC (1/9) で selection committee を立ち上げ審査をする予定である。
- ToO 観測に関する JAXA へのレター草案の内容に問題がないことが確認された。すばる UM でレターを紹介し、必要があれば修正をして 2 月頃に提出する。
- 観測所が行っている、現在の ToO 観測状況の整理とコミュニティの要望についての検討状況の報告があった。ToO の検討状況についてはすばる UM で報告・議論する予定である。
 - まずは、1 時間単位の ToO 実現可能性について、HSC や PFS のキュー観測から検

討を始めることにした。次回の SAC で議論を詰めるにあたり、以下の点を観測所が調査する。

- 半夜以下の観測の割り当て状況、可能性
- キュー観測実行中に観測が中断した場合、再開時に再度最適化を行っているか
- クラシカル観測を含めて観測単位を時間単位に変えるのは、運用スタイルを大きく変えることにつながるので、長期的な議論が必要になる。
- 9/15 から続いているすばる望遠鏡の運用停止に伴い、S23B にキャンセルになった観測の補填をするかどうか審議された。
 - 補填すべきという案、補填すべきでないという案、折衷案がそれぞれ出された。
 - 引き続き議論を継続するが、次回までに学生 PI の件数、さらに thesis にチェックが入っている件数を確認する。
- 188cm 望遠鏡とドーム事故について岡山分室長から説明があった。
 - 昨年 9 月の事故発生以来運用を止めているが、修理費を国立天文台から支援するにあたり、コミュニティへの理解を得たいとの趣旨である。
 - 次回のすばる UM のビジネスセッションで、光赤外コミュニティへの現状の周知や意見収集をする。
- すばる UM の議論セッションでの議題候補を検討した。セッションの時間を確認する必要がある。
 - 特にすばる 3 については、その枠にこだわらず、装置の将来計画を議論するセッションを設け、若手の装置開発者に発表してもらおう。候補者を検討する。
- UM とは別に、観測所が学生に情報を発信できる機会、観測所と大学が意見交流できる機会への要望が上がった。
- TAC 委員長より、S24A の公募の審査が完了し、来週採否の通知が届く予定と報告があった。
 - Dual anonymous review への違反に対し、今回は採否通知とは別途警告メールを送る予定。
 - 次回の SAC で S24A の統計情報について報告をする。
- 3 月の SAC の日程調整を始める。

1. Report from Subaru Telescope (Miyazaki)

(Summary)

- 4th web release was published about telescope shutdown.
 - Observations have been cancelled until 17 Jan. 2024.
 - Repair plan was drafted. The observatory is discussing repair plan, trying to minimize down time.
- TUE2 maintenance work is on-going as scheduled and will end in the middle of December.

- All PFS instrument was installed, except for the last near-infrared camera. Modification of spectrograph was also done to recover instrument performance.
- In the S24A semester, no additional downtime was requested for maintenance work. 24 nights was allocated to the PFS engineering observation.

2. 前回議事録の承認

【まとめ】

前回の議事録が承認された。

3. Rubin/LSST PI 公募開始報告

【まとめ】

Rubin/LSST 公募開始が報告された。PI と JA の資格に関する質問が届いている。

- 募集要項には PI, JA になる身分について記載されているが、どちらでも大丈夫なように読める
 - 最終的には応募者の判断になるが、極端な場合を除いて柔軟に対応する
- 12/19 が締め切りで、次回の SAC (1/9) で selection committee を立ち上げ審査をする予定。

【詳細】

(大栗委員長より議題の説明)

Rubin/LSST PI の公募を開始した。締め切りは 12/19。

私のところにも質問が送られてきたが、SAC 委員の方は各自質問が来たら回答してほしい。もしわからない点があれば聞いてほしい。

- 質問は「特任助教はジュニアアソシエート (JA) にいれてよいか」というもの。よいのではないか、という解釈である。
- 募集要項に「PI はファカルティで、JA は PD などだが、どちらに応募するかは自分で判断してよい」と記載されている。特任助教はグレーゾーンなので柔軟に対応したい。PI の下につくのも問題ない。

【議論】

松岡：私も同じような質問された。PD が PI を目指しても問題ないのか？

大栗：PD が PI で応募するのはやりすぎかもしれない。

松岡：今の公募文章を読むと可能のように読める。

大栗：教授が JA でもよいか、という点も以前話題になったが、極端なケースは不利益を被るかもしれない。曖昧な部分は柔軟に対応したい。募集要項では「ファカルティが PI、学生や PD は JA」と書いている（be supposed to be..）。

松岡：意欲のある PD が PI として応募しようと思っているようだ。議論の背景を知らない、初めて募集要綱を読む人はどちらでも応募してよいように読めるし、実際そうする可能性がある。

大栗：selection committee で対応することになると思う。PI で応募しても JA として採用されることもあると明記している。締め切りを 12/19 にしたのは 1/9 にある次の SAC で selection committee を立ち上げて決めるためだ。委員は公募締め切り後に決めるが、今のところ、応募していない SAC 委員。SAC 委員がどのくらいできるかわからないので、in kind 貢献で既に PI になっている人も入るかもしれない。

4. JAXA レター草案

【まとめ】

ToO 観測に関する JAXA へのレター草案について、内容に問題がないことが確認された。今後はすばる UM でレターを紹介し、必要があれば修正して 2 月頃に提出する予定。

【詳細】

（大栗委員長より議題の説明）

- HiZ-GUNDAM からの要望で、すばる望遠鏡の ToO 観測という枠組みの実績と柔軟な運用の検討を開始するという趣旨のレターを JAXA に提出する。
- 大栗委員長がドラフトを作成した。基本的に事実関係を書いているのみ。HiZ-GUNDAM からの要請、すばるの実績、突発天体の重要性、ToO 枠組みの説明。有名な GRB や重力波候補天体を成果として挙げている。最後にすばる 2 でマルチメッセンジャー天文学に重点を置いていることに触れつつ、柔軟な運用について検討開始したことを報告している。

【議論】

松岡：文章は後で読んでみるが、全体的な流れはよいように思う。

大栗：ToO が 2003 年から運用しているのは正しいか？誰か観測所の方でご存知の人はいるか？

宮崎：調べないとわからない。最初から行っていなかったか？山下さん、青木さんはご存知か？

青木：本当に最初はなかったが初期から行っていたと思う。

神戸：2003 年は立ち上げ期から運用期に変わった頃ではないか。その意味では運用の最初からと言えるのではないか？

青木：立ち上げ期についての記憶がないのでわからない。

大栗：では 2003 年ころより運用とするのでよいか？

伊藤：すばるの accepted proposals をみると 2003A から ToO もあるので正しいのではないか。

大栗：ガンマ線バーストについての記事を読んでいたら、GRB の afterglow を観測するために ToO の枠組みを作るところから始めたと書かれていた。

宮崎：まだレターを要請した人には見せていないのか？ JAXA に提出する前に見せるべきではないか？

大栗：まだ見せていない。すばる UM で紹介し、問題があれば修正して提出する予定。提出は 2 月頃なので間に合うはず。

宮崎：どこで紹介するのか？

大栗：ToO の議論セッションが候補だがまだ決めていない。

宮崎：彼らの希望に沿ったものであることを期待する。何かを約束するのは難しいのでこの内容でよいと思う。

大栗：特にコメントがないようなのでこの文書案を UM でシェアする。

5. ToO 観測のルールについて（検討の進捗状況）

【まとめ】

現在の ToO 観測の状況と、コミュニティの要望の検討状況について報告があった。

まずは、1 時間単位の ToO 観測実現可能性について、HSC や PFS のキュー観測から検討を始める。

次回議論を詰めるにあたり、以下の点を観測所が調査する。

- 半夜以下の観測の割り当て状況、可能性
 - キュー観測実行中に観測が中断した場合、再開時に再度最適化を行っているか
- クラシカル観測を含めて、観測単位を時間単位に変えることは、運用スタイルを大きく変えることにつながるため、長期的な議論が必要になる。

ToO の検討状況については、すばる UM で報告・議論する予定。

【詳細】

（ハワイ観測所／神戸さんから説明）

- 今回はポイントだけ説明し、次の SAC で議論を詰めて UM で報告したい。
- コミュニティからの要望は以下の 4 つ
 - GRB アラート後 1 時間以内に分光追観測を開始できるシステムを 2030 年まで

- に実現。(PFS を想定、HiZ-GUNDM から)
- 夜数単位を 1 時間程度にする。(マルチメッセンジャーから)
- PFS を用いた ToO 観測。(マルチメッセンジャーから) これは PFS が検討している。
- 10 年から 100 年に一度規模のイベントについて、装置交換を含んだ ToO 観測の仕組み。(マルチメッセンジャーから)
- 今後 10～15 年ですばるをどう運用していくかのたたき台にもなっているかもしれない。

(検討内容の要旨)

最初に ToO 観測に関する現行の手順とルールをまとめている。

- 承認は、観測者が所長か責任代行者に依頼後、現場に連絡して実行中のプログラムの進行、人的体制、装置を考慮し行われる。いまのところこのプロセスで遅れたことはない。
 - 発動要請は前日 9 時までが標準。実際には夕方の発動も受け付けている (rapid ToO)。HSC の場合は phase 2 sheet を用意する為当日午前中が現実的。PFS は準備の為に 9 時を念頭に置いている。
 - 観測体制は観測をリードできる PI や Co-I の参加が必須。2 年前からリモート観測参加になっている。
 - 単位は半夜
 - 使用できる装置は準備ができているもの。Ns/Cs の装置を同じ夜に切り替えることは可能 (30 分でできる)
 - 補填は実視された夜数分のみで、キュープログラムへはキュー全体の時間枠に補填している。
- ToO 観測の実績統計について、別紙 1 には 2003 年からあるが最近 8 年で 16 夜。セメスターで 2 件程度。Keck はセメスターで 10 件程あるらしい。
- 時間単位と発動要請時間に関する考察について、結論は出ていないが重要な点に触れると
 - ToO 観測者が時間を有効に使える
 - 発動要請期限については、キュー観測に組み込む場合は時間を要するが、クラシカル観測は対応できれば問題ない。キューの場合は phase2 (HSC の場合) や pfsDesign (PFS の場合) の事前準備で早めに開始できるか?
 - クラシカルが半夜単位なので 1～2 時間で補填を入れるのが難しい
 - 全ての観測単位を時間単位にすると、頻繁に変わる装置・観測者へ対応で SA の負担が大きくなる。装置毎にオペレーションが異なるので、一晩内に装置交換の可能性がある则対応する日が増える。SA の昼間のタスク (各自の研究やリモート観測、新規装置の受け入れ検討) とのバランスが取りにくくなる。
 - 観測者が観測を実行し、ナイトオペレータが装置の運用をする可能性もあるが、装置操作が単純化されていない等のハードルがある。
 - 思いつく提案としては、

- 短期的には HSC や PFS はキューが原則になるので、まずはここから検討する。
- 全ての観測を時間単位に変更するとオペレーションそのものが変わるので、運用・装置担当・装置交換担当や観測者がタスクフォースを組んで検討するところから始めるべきか。
- 別紙 2 に、装置交換を含んだ ToO 観測について二つのケースを提示（PFS --> HSC、M2 --> HSC）
 - PFS --> HSC の場合、通常の装置交換では、早くて 3 日かかる。
 - ① PFS を外して M2 を付け、PFS を Popt2 から外し、
 - ② HSC を入れ、HSC を冷やし、
 - ③ その翌日に HSC を入れる。
 - M2 を望遠鏡に搭載しなければ 2 日になる。翌日に ToO 観測を実行するには作業を並行するか POpt2 を 2 台用意する必要がある。
 - M2 --> HSC については翌日に観測できるケースがあるが HSC の状況による。
 - いずれにしても装置を元に戻すことを考えると 1 週間くらいのタイムスケールになる。

【議論】

伊藤：Phase 2 sheet には何を書くのか？

神戸：HSC の観測天体やキューの順番について記載する。望遠鏡を向ける方向と露出の順番を記載する。これらを一晩分並べてキューを実行する。

伊藤：つまり ope ファイルということか？

神戸：ope ファイルを並べたようなものになる。

大栗：基本的にそのとおりで、使用するフィルター・露出時間・dithering pattern を指定する。

伊藤：それならばサービス観測のように、プロポーザル申請時にダミーの値を入れて、予め用意してもらうのは可能ではないか。時間単位の運用は大変だがサービス観測と合わせるのはいかがでしょうか？例えば、ToO が発動した夜はサービス観測をするなど。

神戸：コミュニティがそのように決めれば可能である。但し、例えば 1 時間 ToO に使われた場合残りの 5 時間を使いたいかどうか、クラシカル観測の各 PI がどう考えるか分からない。Phase 2 sheet は一日の観測を見て最適化がされるが、最適化が図られずに ToO が入る可能性もある。最適化すると時間がかかるかもしれない。

大栗：観測の途中で天気が悪くなることはある。その時に時間が空いた、となると最初に最適化した通りに実行されない。1 時間 ToO 観測を入れるのは悪天候で穴が空いた場合と同じ扱いになるのではないか。

神戸：詳しいことは分からないが、キューの最適化を図らないという合意があればよい。実際には seeing が悪い時にキューを入れ替えるケースはあるようだ。詳しくは表さんを交えて決めたい。

大栗：最初にキューから始めるのは良いアイデアだが、現在の観測所の計画として、全ての観測をキューに移行する方針があるのか？あるいはそのような計画が進行中なのか？

神戸：各装置がどのように動くかによるので、全ての観測装置をキューに使用しているわけではない。話には出ているかもしれないが、具体的な検討は進んでいない。NsIR 装置は beam switcher を入れて、装置の切り替えをする要望はある。IRD もキューをしたい筈。今は残念ながらシステムとしてオペレーションに載るものは HSC と PFS 以外ない。

松岡：時間単位の割り当てについて、まずはキューで検討を始めればよいと思う。PFS で ToO という要請にもマッチする。もう一点、ToO の PI にはメリットがあるがクラシカル観測の PI は大変になるのではないかと。タスクフォースを形成するかも知れぬ慎重に進めるべき。

大栗：タスクフォースを組むならば、ToO 観測をする人だけでなく、ToO をあまりしない人の意見も聞くべき。

神戸：（結果を出さないといけない）タスクフォースではなく、ワーキンググループくらいの方がよいかもしれない。

大栗：今後の予定はどのようなになっているか？

神戸：キューへの検討はしてみるが、長期の方はアイデアがない。

大栗：UM で ToO セッションがあるのでこの時に議論するのか。

神戸：次の SAC で大きな議論がなければ、短期・長期の案として紹介するのはどうか。

大栗：現在、観測途中でキューの最適化などを行っているかどうかを確認してほしい。HSC の場合、どの人が不利益を被るかは分からないので次セメスターに補填するのは分かるが、直接補填するものにはなっていないのはなぜか、過去の議論の経緯が分かれば教えていただきたい。

神戸：TAC で決まったルールだと思うので分からない。

大栗：HSC は ToO で人気のある装置なので、どうすべきかもう少し考えた方がよいかもしれないが、具体的にはわからない。

神戸：キュー観測に割り当てる時間に ToO 分をいれておく、という案も出ている。

大栗：ToO に費やされる時間の期待値が分かればできるかもしれない。

神戸：表さんは申請夜数の半分弱と仰っていた。実際に使われている夜数は申請の半分以上らしいのでキューが得をするセンスだが、実行件数が少ないので見積もりが難しいとのこと。

大栗：重力波などは検出器が動いているかどうかもあるので、発動の予測は難しいのではないかと。

松岡：キューで実際に不利益を被った人への補填という考え方は難しいと思う。曇った場合とみなすのはよいと思う。また、あらかじめ時間を組み込むのは、補填を考える必要がないのでシンプルになるかもしれない。

大栗：組み込む時間を見積もるのが難しい。いろいろな装置を使用するプログラムもあるため組み込めない装置もある。

植村：TAC という話題があったので補填にコメントをするが、HSC キューをする晩に HSC キューの ToO が発動されれば HSC キューとして潜り込ませられるが、HSC キューを使用する ToO 課題は ToO 申請の中でも数が少ないので効果は小さい。発動された ToO で、あるものは半夜単位、あるものは時間単位などルールが煩雑になるのを懸念している。補填については観測所がなるべく早く補填する、というルールだそうだ。

大朝：HSC キューについてはよいと思うが分光装置を使う ToO の方が多いと思う。私はよく ToO に遭遇するが、ToO が発動されるのは天気の良い時に多い印象である。補填はきちんとしてあげてほしい。半夜ではなく 1/4 夜を単位にするなどを検討してみるのはいかがでしょうか。これまででも 1/3 夜のクラシカルがスケジュールされていたことがあったと思う。

神戸：HSC はキューがあるので、1/4 夜などの割り当てをしやすく実質的には半夜未満の割り当てをしている。

大朝：HSC は問題ないと思うが、他の装置、IRCS、MOIRCS、FOCAS など分光装置のときはどうか。

大栗：確かに装置によってルールが変わると煩雑になるかもしれない。ToO で分光をした人は多いので、HSC キューで運用してもメリットが限られるかもしれない。

神戸：今日の議事録を持ち帰り、表さんを中心に引き続き観測所で検討する。

大栗：特にキューで行うことについて次回の SAC で議論を詰めたい。

神戸：議事録に質問が明確に書いてあれば答えやすいと思う。

大栗：今日出た調査項目は以下のとおり。

- 1/4 夜などの半夜以下の割り当ての現状及び実現可能性
- 天候悪化による観測の中断やシーイングの変化があった時
- キュー観測の途中で現状どのように最適化がされているか (またはされていないか)

これらの情報で 1 時間単位のキュー実行が可能かどうかの検討が進められると期待する。

6. すばる望遠鏡運用停止の対応

【まとめ】

- 9/15 から続いているすばる望遠鏡の運用停止に伴い、S23B にキャンセルになった観測の補填をするかどうか議論された。

補填すべきという案、補填すべきでないという案、折衷案がそれぞれ出された。

- 補填すべき理由：

前例がない長い期間。次の公募件数増加の懸念。すばる望遠鏡に対する信頼性。

- 補填すべきでない理由：
来年行うべき価値がある新規観測への影響。
個々のプログラムに対するキャンセル夜数は変わらない。
部分的補填への線引きの難しさ。
 - 折衷案：
学生観測の救済。一律半分の時間の救済。次回の公募での加点。
- 議論を継続するが、次回までに学生 PI の件数、thesis にチェックが入っている件数を確認する。
 - Gemini/Keck 時間交換枠については借金という形になるかもしれないが、補填への方針に基づいて観測所が交渉することになる。

【詳細】

(大栗委員長より議題の説明)

現状の確認と今後について

- S23B は 9/15 から 1/17 迄キャンセル。
- PFS の試験観測は S24A で 3 回予定している。悪天候で観測が全て潰れるリスクが分散される。
- 共同利用や PFS (SSP、運用開始時期) は今後どうするか？

特に、S23B の観測の補填をするか否か。

原則共同利用の補填をしないのが方針だが特例として扱うべきか？

【議論】

大栗：補填について観測所で補足情報はあればお願いしたい。

宮崎：観測夜数にコンティンジェンシーがあるわけではないので、補填をすると次回のプロポーザル夜数を絞ることになる。DDT は PFS のコミッショニングなどに費やされて、観測所でコントロールできる DDT は 7 版程度である。この中で他の装置のエンジニアリングをしているので、補填に割り当てるとそれらを延期することになる。

神戸：その通りで、老朽化対策等で DDT の枠では足りないので、ステークホルダで比例負担して頂くダウンタイムを求めている状況である。DDT の枠内では事前に科学観測を割り当てることができない状況が続いており、少なくとも 2024 年も同様である。

松岡：補填しない方がよいと思っている。これまでも同じセメスターで補填できない場合はしていないので、SSP など長期的なプログラムは別として、今回対象件数が広いからと言って補填すべきだとは思わない。未来の重要なプログラムを潰すことになり、例えば JWST 等と絡んだタイムリーな観測の機会を潰してまで補填する価値があるかは疑問である。

伊藤：補填すべきであると考え。今回は原則補填しないという話になっているが、前回は SAC で決めてよいという話ではなかったか。このようなダウンタイムはこれからも起きる可能性があり、この機会にルールを決めるべきではないか。例えば「2週間以上のダウンタイムは補填する」など。これまではダウンタイム期間が短かったが、老朽化が進み今後ダウンタイムが増えた場合、補填がなければすばるに対する信頼性が下がる可能性がある。ある人は科研費の基盤 B くらいの気合で申請していたそうだが（もし基盤 B が採択後に予算がないのでキャンセルになったらどうか？）

大朝：補填した方がよいと思う。今回は前例がない事態である。前日も発言したが、数晩だとセメスター内でのスケジュールが難しいかもしれないが、今回は S24B の募集をしない覚悟で補填することは可能ではないか。いつも SSP など大きなプログラムだけ補償されている印象だが、個々の共同利用も大事にすべきであると考え。24B の募集前なので、縮小して S23B の観測を組むのはどうか。今ルールを決めるのもよいと思う。

大栗：補填したい気持ちもわかるが、プロポーザルの中にはタイムセンシティブなもの、1年後には状況が変わり、観測を行う意義が失われるものもあると思う。

佐藤：全て補填をする案には、次回出そうと思った人が出せなくなるので反対だったが、伊藤さんや大朝さんの意見を聞いて補填もありかと思った。しかし新規募集全て停止はよくないのではないか。通ったプロポーザルは優秀なので次に出しても通るかもしれない。

伊藤：S23B は 8 月から 9 月半ばまで観測できているので新規観測が全くできない訳ではない。UH や Keck/Gemini 時間交換枠の観測への補填はどのようなになっているか。

宮崎：補填しない方針である。

神戸：補填しないが相手の望遠鏡の観測は進むので、時間交換枠は借金が増えることになる可能性はある。

宮崎：借金については交渉すべきことか？これまで望遠鏡トラブルで補填したことはあるか？

神戸：交渉になると思う。これまで基本は補填していないが配慮している可能性がある。表さんに確認する。一般にセメスター内での補填は試みている。

宮崎：共同利用も時間交換もルールは同じはず。Gemini/Keck については先方の自由で、昔のプロポーザルをそのまま出してもらってもよいのかもしれない。一時的に夜数を増やして交換枠を補填することにはならないと思う。

神戸：まだこの議論は始めているので、借金を増やさないでもらうように交渉しないといけない。

宮崎：まだコンタクトがないが、今後交渉する必要がある。国内の観測は別に考える。

伊藤：S23B 全ての観測がキャンセルになったわけではないが、何夜くらいが新しい観測に使えるのか？

宮崎：今のところ 1.5 か月分は観測できている。

大栗：8月はHSCのキューがあったので、プログラムによっては部分的な観測に留まっていると思う。それらのキュー観測についてはどうするか。

大朝：「全て」という言葉が誤解だったようだが、そのくらいの覚悟でという意味だった。UHは共同研究契約に基づくので補填しなくてよいと思う。一方で日本人への補填を考えるべきだと思う。タイムリー性など、ケースによるので来年度観測しても価値があるのかPIに聞いてはどうか。補填不要な夜数を計上して公募に割り当てられるのではないかと（2か月分くらい積み上がらないか）。

佐藤：観測できた時期が偏っている為、補填すると、結局新しく応募できない観測が多くなるのではないかと。

大朝：UHがまんべんなくスケジュールされているのでそれを考慮に入れられないか？

松岡：補填には反対する。Euclidが始まり、PFS、LSSTがまもなく始まる国際状況の中で、すばるがS24Bにできる価値の高い観測があるはずで、これらの観測を75%取り消してまで今年の観測を補填するメリットが感じられない。キャンセルになったプログラムも再度プロポーザルを出すことは可能で、価値が高い観測は審査を勝ち抜くはず。そのようなものでない観測は救われるかもしれないが、そこにすばるが目指すものがあるかは納得しかねる。

山下：委員ではないので是非は言えないが、中間意見としてはS24Bで加点して審査するというのは考えられないか？

植村：TACとしてもその点を考えていたが、どこに加点を設けるかが難しい。募集するのは構わないし、S23Bのことをコメントしてもらうのがよいかもしれない。無条件に通すと補填と同じなので何らかの扱いが必要だが、当時のスコアをキープするのか、レフェリーにもう一度回すのかなど扱いを検討しなければいけない。検討が難しいので補填は控えたい。

伊藤：補填をしないとS23Bの観測と新しい観測でプロポーザルの数が増えるのは事実だろう。正論では全て審査すべきだが、そこまで審査に負担をかけるよりは制度を考えた方がよいのではないかと。

大栗：昼休みなので、一度中断して岡山の議題の後に議論の続きをしたい。今日結論は出ないと思うが、S24Bの公募が始まる2月迄に決める必要があるため猶予はない。

【午後：議論の続き】

大栗：午前中にS23Bのキャンセルになった観測を補填するかどうかについて議論していた。補填すべき、すべきでない、どちらの意見もあった。意見が収束しない場合は投票せざるを得ないかもしれない。

守屋：午前是不在だったので、差支えなければ簡単なまとめをお願いしたい。

大栗：「望遠鏡トラブルの場合、同じセメスター内で補填する努力をし持越しはしない」というのが現在ルールである。今回に限ってはダウンタイムが長期にわたるので補償すべきでは、という意見があった。一方で、S23Bの観測をS24Bにスライドさせると補償枠で夜数が埋まるので、新規募集の夜数が少なくなる。EuclidやJWSTで観測が進

んでいるのに新しいサイエンスをする機会が減るので補填すべきではない、という意見があった。折衷案として、プロポーザルを出してもらい加点する案も出たが、具体的にどのような加点をするかは要検討である。

佐藤：学位論文がかかっている課題は配慮してもよいのかもしれない。本当に必要な人は今年度卒業するかもしれないが、D 論に向けては長期的な計画を立てているかもしれない。

大栗：一つの折衷案かもしれない。学生 PI や緊急度とかか？

守屋：学生 PI を救うのは有り得るが S24B の学生 PI には不利にならないか？新しい学生もいるので、その人が不利にならないようにすべきではないか。

大栗：全面的に救済すると新規観測の時間が取りづらくなるが、学生 PI だけなら補填する夜数は限られ、影響は小さいのではないか。

守屋：サイエンスも進んでいるので、全てを補償するのは問題かもしれない。よいサイエンス、生きているサイエンスはもう一度競争してもらうしかないのではないか。学生を救済するのは、数が少ないのであれば考慮してもよいかもしれない。

大栗：学生 PI のプロポーザルの数は確認しないといけない。

守屋：昔の学生だけ救い、これからプロポーザルを出そうと思っている学生が出せなくなる状況は避けるべきである。

松岡：以前の SAC で S23B の学生 PI のプロポーザルは 8 件か 9 件と話題になったと思う。Thesis にチェックが入っているプロポーザルが再投稿された時は加点する、というのは有り得るかもしれない。

伊藤：午前中にもコメントしたが、プロポーザルの件数が増えるので TAC やレフェリーが大変になる可能性がある。観測は価値があるので、それを落とすのは通った基盤 B をキャンセルすることと等価ではないか。また、今後老朽化が進みダウンタイムが増えた場合、補償がなければ信頼性が減るのではないか。

大朝：プロポーザルが通った学生と、これから申請する学生を同じ土俵に上げるのは違うと思う。これからの申請については、例えば蒸着などで観測できない時期があることと同義ではないか。全てを保証しなくても、例えば半分補償というのはどうか。

大栗：半分は時間の意味か？

大朝：そうだ。佐藤さんは広く浅くと仰ったので、一律半分の時間を補償するのも一案と考える。また PI に希望を募るか、何か措置を取るべきだと思う。

大栗：半分かもう一度出してもらうかを聞くということか。それは手間が増えるのでは？

青木：学生案に配慮は有り得ると思うが、すばるがその時のベストが尽くせるようにすべきではないか。その時々でのベストの提案に時間を付けるべきで、原則は補填なしだと思う。補填をしなければ次回提案数は増えるかもしれないが、補填をした場合は次々の公募に件数が増えるかもしれない。

下西：全てを補填すると勢いのあるサイエンスの目を潰すことになるので賛成はできない。学位論文がかかっているプロポーザルは、時間の猶予がないので補填を考えても

よいと思う。ALMA でも B ランクで観測されない例はよくあり、もう一度出して競争してもらえばよいのではないか。

大栗：今も学生プロポーザルかどうか分かるようになっているのか。

植村：Thesis に関係するかどうかをチェックするところはある。学生 PI は内部で確認しているだけかもしれない。

大栗：Thesis にチェックを付けていると具体的にどのような扱いになるのか？

植村：レフェリーの評価が一番で、thesis にチェックが付いたプログラムを優遇しているわけではない。ボーダーラインにある場合に優遇することがある。もし一部を補填するなら、学生優遇の他にスコアが高いプログラムを補填という案もあるかもしれない。

大栗：可能性としてはあるが、どこで線を引くかの問題が生じる。

下西：ハイスコアのプログラムを補填することについて、ALMA では元からランクが A、B にわかれ、A はキャリーオーバープログラムという体制になっている。しかし、今回の事態に対応するためだけにそのような仕組みを急造で用意するのは、TAC の作業量を一時的に増やすだけとなると思う。今後を見据えそのような仕組みを継続的に導入するかどうかは、別途議論の必要がある。

植村：部分的に補填するプランにした場合、予め補填夜数が SAC で決まれば、その枠の中で TAC が優遇するプログラムを決めていくことはできるかもしれない。

松岡：点数が高いプロポーザルでも、来期もよい観測かは分からない。学生を救済することは価値があると思うが、単に点数が高いものは S24B でも価値があれば点数は高くなるし、加点のような操作をしないのが素直ではないか。

伊藤：下西さんの意見を反映させようと思うと、加点方式がよいかもしれないと思った。どのようにするかは検討しないといけないが、S23B で 25%は実行されているので、その分は新規の募集になるはず。S24A で PFS は 24 夜割り当てられているが、intensive や SSP 観測はどうか？補填の対象なのか？

大栗：基本的に normal 観測と同じ扱いで補填はないと思う。

宮崎：そうだと思う。

伊藤：IRD-SSP については、検出器が壊れたので補填の対象になったのではないか。

神戸：IRD-SSP は SSP の終わりの時に、観測できていない 14 夜の追加観測を決めた。SSP の補填はケースバイケースになる。Intensive 観測については、COVID の時は補填した。

宮崎：補填について、UM で議論したのか？

神戸：していない。IRD は SAC で決まった。UM で議論したのは、悪天候で不足した HSC の SSP を 30 夜伸ばした時である。

大栗：IRD で補填したのは望遠鏡トラブルなどが対象で、火山などは対象になっていない。

松岡：今回の方針は今後の補填の扱いにも影響するので、慎重に議論すべき。今回ダウンタイム自体は長く続いているが、個々の観測から見ればキャンセルになった夜数は過

去のケースと変わらない。これまでセメスターを超えて補填をしていなかったのは、運用の問題と、その時のベストの観測課題に時間を割くという方針からだったと理解している。

宮崎：自分自身の周囲の状況を伝えと、ルールを変えることにつながるので慎重に議論してほしい。すばるの運用スタイルは原則ユーザーが決めるが、それが変わるのでユーザーやコミュニティで充分議論してほしい。

大栗：不在の方もいるので継続審議とする。次回までに調べることがあるとすると学生プログラムの数か。

大朝：実行されなかったプログラムが 20 晩くらいとしたら、新規観測を圧迫しない筈。それであれば交渉する時にも学生だけに補填したといえるのではないか。

大朝：S23B は現地で観測ができる可能性もあったので、学生の落胆は大きかったのではないか。進路選択に影響するかもしれない。

大栗：S23B の課題から学生 PI であったもの、その中で thesis にマークがあるもの両方調べることが宿題になる。観測所の共同利用係に聞けば分かるか、あるいは TAC で分かるか？

植村：実行されたかどうかは共同利用係に聞かないとわからないが、通ったプロポーザルは TAC で分かる。

神戸：今回は観測所が旅費を出しているの、学生課題について分かる。ToO を除けば 9 件。その内 1 件は学生がハワイに来たので実行されたはず。これらの情報を送ることはできる。

大栗：Thesis のマークはどうか？

神戸：表さんがプロポーザルを閲覧できるので、まとめて依頼しておくのでよいかな？

大栗：お願いします。

大朝：優先順位としては、まずは学生 PI で、その次に thesis の確認ではないかな？

大栗：基本の路線はその通りだが、どのくらい数があるかにもよるのでまずは数を見てみたい。

神戸：追加で二つコメントしたい。ひとつは、UH の話題が出たが、今回の議論は日本の持つ 65% の中でどうするかの話なので、UH は UH の枠の中で決めるはずである。もうひとつは、UH との MoU には「大きな故障が生じた際には、適切であれば、UH は、その故障の影響が及ぶ期間中の観測時間の UH 割当て率を一時的に押えることに同意する」とある。つまり、交渉次第では補填しないといけなくなるかもしれない。

7. 岡山 188cm 望遠鏡の現状報告 (13:00-13:35, ゲスト：田實晃人さん)

【まとめ】

188cm 望遠鏡とドーム事故について岡山分室長から説明があった

- 昨年 9 月の事故発生以来運用を止めている
- 修理費を国立天文台から支援するにあたり、コミュニティへの理解を得たいとの趣旨

次回のすばる UM のビジネスセッションで光赤外コミュニティへの認知や意見収集をする

- 188cm 望遠鏡の必要性や、修理後の運用や計画について伝えてもらうよう依頼した

【詳細】

(宮崎さんより背景の説明)

- 岡山観測所は現在ハワイ観測所のブランチになっているので、SAC での議論をするのがよいと考え大栗委員長に今回の件を説明した。
- 188cm 望遠鏡はドームの故障で運用を止めているが、ドーム修理の予算を台長のリーダーシップの下、文科省に打診している。
- 台長からコミュニティの意思を明確にしてほしいというコメントがあった。
 - すばる UM の観測所のセッションで説明をしてもらう予定だが、コミュニティの意見として伝えるためにも、キックオフとして今回 188cm の状況を説明する機会を設けた。

(田實さんより資料の説明)

- 188cm 望遠鏡は 1960 年に運用開始した国内で 3 番目に大きい望遠鏡
 - 2017 年度までは共同利用を行っていたが 2018 年度から天文台・東工大・浅口市の三者間で共同運営をしている。
 - 系外惑星観測の拠点として、ユーザーが使用料を払って運用している。
 - ヨードセルを用いた高分散分光器を使ったドップラー法に基づく系外惑星の発見や、測光装置を使ったトランジット観測、どちらも成果を上げている。現在までに 188cm で巨星をめぐる惑星を 52 個発見。Cadence が重要な観測なので占有性が強みになり、研究者のモチベーションになっている。
 - TMT のテストベッドもかねて研究者間の連携を開始している。
 - 最近はヨードセルに頼らず、IRD でも使っているような光コムを産総研と共同開発。岡山で 2 号機を試験運用中。さらに、すばるには改良版を HDS につなげようとしている。今後 10 年で岡山とすばるで連携し、TMT につなげることを考えている。
- 昨年 9 月末に 188cm の望遠鏡ドームスリットの扉が落下した。
 - ドームは二重構造で、上扉がずり落ちて開口部の反対側に落下、動かせなくなった。事故以来、1 年 2 ヶ月ほど観測は中止している。
 - 台長がその修理費を集めるため、各方面に支援をお願いしようとしている。
 - 国立天文台・自然科学研究機構から予算を出すには、コミュニティの理解を得

る必要がある。

- 天文コムは産総研との共同研究で 188cm 望遠鏡への搭載・試験が進行中であり、同型後継機をすばる HDS へ搭載する計画も進行している。
 - 詳しくはすばる UM で発表される。今後 10 年の計画を立てるため、この発展について検討する必要がある。
 - せいめい望遠鏡で稼働し始めている可視高分散分光器(GAOES-RV)のワークショップが 11/30-12/1 にあるので、そこで議論のキックオフをする。
- すばる UM で紹介して認識を高めたいが、その前にこの場で話したい。
 - 岡山分室はハワイ観測所の一部なので、ビジネスセッションで現状の周知と意見の収集をする予定。

【議論】

伊藤：「コミュニティ」とは何を指すか？188cm は共同利用を停止しているのにコミュニティの意見を聞かないといけないのはなぜか。

田實：国立天文台が予算を出して修理するために賛同を得ないといけない。

伊藤：共同利用研究機関としては、共同利用を続けていないといけなかったのではないか。また GAOES-RV で代わりにならないのか、という意見が出るはず

佐藤：GAOES-RV でできる部分はあるが、専用の望遠鏡ではないので観測時間が短く、188cm ほどまとまった時間が取れない。また天文コムがない。装置のパフォーマンスと観測時間の点で 188cm のメリットは依然として大きい。一部の研究目的には GAOES-RV は使えるが、精度を追求してべったり観測するには 188cm が必要である。

伊藤：専用望遠鏡であるということと、コミュニティが絡む意見が必要という台長の意見に親和性があまり見られない。台長の真意は何か？

松岡：伊藤さんの意見と同じ印象を持つ。

松岡：国立天文台が一つのプロジェクトの為に多額の予算を出すことをコミュニティが理解するか、と問われていることになるか？

田實：そういうことになる。

松岡：GAOES-RV など他の装置も利用可能な中で、188cm を維持することが実際にどれほど不可欠なのかの数值化や、ドームが直った後の計画も説明があるとよい。運用費は研究者持ち込みだと思うが、その長期的見通しも UM で見られると有難い。

田實：ユーザーからはドーム修理の要望書は早々に提出されている。しかし一年以上観測が止まっていて、さらに修理に半年以上かかると、今が瀬戸際と認識している。

宮崎：国立天文台は共同利用研究機関なので、全てが共同利用と誤解されがちだが、野辺山や ASTE など共同利用を終えた施設にも予算は使われている。それは国立天文台が価値を見出しているためで、岡山についても同様ではないか。岡山だけが特別扱われているわけではない。

田實：岡山については、三者間の運用ではユーザーからの資金でメンテナンス費用および電気代などの生活費を維持してきた。今回修理することになって天文台に支援を依頼した。

大朝：ハワイ観測所の分室なのですばる UM では話す状況になったと思うが、ユーザーが異なるので「コミュニティ」が適切かはわからない。光赤天連シンポジウムやウェビナーを設けて複数の機会を設けるほうがよいのではないか。台長はコミュニティの意見を尊重したいのだと思うが、すばると岡山でコミュニティが同じではないので、いろいろなところで認知してもらう方がよいと思う。修理後にどのくらい使う見込みがあるのか、今後のプランを示すべきではないか？（今年度の世話人の反省点の一つ）将来シンポジウムに岡山は入っていなかった。予算は出していないが、国立天文台の人は関わっている。支援が得られたらキャンペーンを設けるなどして限られた人だけが使うような印象を与えないようにしてもらいたい。

田實：仰る通りで、台長から指示があったのがこのタイミングだったが、光赤天連シンポジウムでも情報を発信していかないといけない。2018 年以降はなかなか情報発信ができていなかったが、これからどんどん情報を発信していきたいと感じている。

佐藤：コミュニティの観点では、188cm は（資金を出している分）東工大の夜数が多いが、共同利用が終り今の形に移行した後も、東工大以外の大学の人も使っている。これまで 10 研究機関で 40 人くらいが運用や観測に関わっていた。東工大だけではなく、光赤外コミュニティの人が使えるようにしてきた。「コミュニティ」といった場合は光赤外観測をしているコミュニティではないか。188cm だと人が限られるので、他の望遠鏡を使っている人も含め、188cm の位置づけができればと思っている。

大栗：ユーザーが使いたかったら、個別に東工大にコンタクトをすれば観測できるということか。

佐藤：その通りである。共同利用観測を終えた時は各所で話していたが、いまは以前に比べると知らない人が多いかもしれない。188cm は自動望遠鏡なので、基本はサービス観測（キュー観測）のように観測している。割り付けの自由度が高いため、モニター観測や小規模の観測の需要が結構多く、受け入れてきた。

大栗：それは重要な点である。新しい装置の試験は受け入れているか？

佐藤：グループが労力を割けばできるが、受け入れ側にマンパワーがない。丁度共同利用観測終了時期に、JOVIAL という木星観測用の装置（日本 PI：生駒さん）をインストールした経験がある。

大栗：次の UM で話すということだが、プログラムには入っているか？

田實：ビジネスセッション、TAC レポートの後にアレンジ済である。

大栗：今回の議論で出たことも含めて宣伝してもらいたい

8. すばる UM 議題（すばる 3 を含む）

【まとめ】

- すばる UM の議論セッションでの議題候補が上がった。ひとまず以下をプログラムに組み込む。
 - ・ ToO policy について NsIR 装置の将来計画について
 - ・ PF 共同利用ポリシーについて
 - ・ すばる 3（すばるの将来）について
 - ・ TAC dual anonymous review について
- 特にすばる 3 については、その枠にこだわらず装置の将来計画を議論するセッションを設けることとし、若手の装置開発者に発表してもらおう。良い候補者がいれば推薦してほしい。
- 議論セッションの時間については、NsIR 装置については取りまとめ役に確認し、ToO policy については SAC で決める。
- UM とは別に、観測所が学生に情報を発信できる機会、観測所と大学が意見交流できる機会への要望が上がった。

【詳細】

（大栗委員長から議題の説明）

- 現在すばる UM での議論セッションは 4 つある
 - 1/24 午前
 - 1/24 午後
 - 1/25 午前
 - 1/25 午後
- 議題については以下が候補である
 - ToO policy について
 - 取りまとめは未定
 - 観測所の検討状況、JAXA へのレターについて
 - 60-75 分を想定
 - NsIR 装置の将来計画
 - 必要な時間等について国立天文台の田村さんと調整
 - ロードマップ的なものを議論
 - PFS 共同利用ポリシー
 - 共同利用ポリシーの現状の案の紹介、Filler の議論
 - 長めの時間が必要で、75-90 分
 - すばる 3
 - これまでの議論の紹介や今後の進め方について
 - 「日本人」の定義について（一度 SAC で議論したことがある）
 - すばる望遠鏡停止時の対応について

- 全体像はまだ決まっていないが内容を詰めていきたい

【議論】

植村：TAC レポートの後に質疑応答の時間があるか？

大栗：あるが時間は少ない。

植村：Dual anonymous review になってまだ時間が浅いので、質問が多くなると予測される。質問時間が長ければよいが、短くなりそうならば議題の一つに挙げてほしい。内容としては、どのくらい改善したかの他、匿名性が守られていないケースが多いので、違反例や書き方を提示し、intensive の dual anonymous review の必要性について議論したい。短めで構わない。

大栗：では追加する。20~30 分でよいか？英語か日本語か？

植村：時間は 20-30 分でよい。言語は他の議論に合わせる。

大栗：言語については各とりまとめの人に聞くのがよいと思う。他に議題はあるか？

伊藤：議論セッションとは異なるが、人的交流のようなことができないか。大学の立場から見て、最近ハワイ観測所が遠い存在になった。ハワイ観測所に学生が来なくなった、観測の短期滞在でなく、以前のように月単位で滞在する人が減っている。そのようなことを議論できないか。大学からはハワイ観測所から来てほしい人、ハワイ観測所から院生への希望など、意見を交換する機会が欲しい。UM でなくてもよい。

神戸：今回学生 PI を受け入れたことで教育の受け入れ方について変わりつつあるので、議論できるのはよいかもしれない。

宮崎：この件は UM で話して議論が進むものなのか？学生に観測所を紹介する場は欲しいと思っていて、若手向けのセッションが入れば嬉しい。議論というよりは情報をまず提供する場をイメージしている。観測所から来てもらいたい人、というのは初めて聞いたので、観測所への要望を知らせる場になってもよいかもしれない。双方向で情報交換する場があると有難い。

大栗：学生 PI の受け入れは大きかったが、その機会も失われたので交流が難しいところなのは理解する。UM 議論セッションの話に戻るが、議題候補の中にすばる 3 が入っているが、これまでキックオフミーティングを 2021 年に行い、今年の光赤天連シンポジウムで高田さんが話した。そろそろ議論すべきで、高田さんと個別に UM での議論の可能性と話したが結論が出ていない。その後、大朝さんに国立天文台の将来シンポジウムで NAOJ の執行部から示唆があったそう。すばる 3 については議論セッションに入れてもよいが、議論する内容があるかは分からない。

宮崎：NAOJ 上層部から大朝さんが受けた示唆について具体的に聞きたい。

大朝：具体的な詳細な話はなく、議論を始めていないといけないと叱咤激励を受けた。次の審査は厳しいので戦略をよく練るように示唆を受けた。どこで考えるかについて、コミュニティでボトムアップが基本なので、SAC で議論しつつ UM で議論するのがよいのではないかな。

大栗：何かしら UM で取り上げた方がよいと思うが何を話すべきか。

大朝：どういう方向に持っていきたいかの議論はできるのではないかな。国立天文台の方にすばるが次を考えている姿勢を見せることが重要なのではないかな。

神戸：フロンティアでは中間審査が半期よりも少し早めの時期にある。中間審査の結果で後半の予算が決まるが、すばる 3 を真剣に考えていないと、その後の予算獲得が大変になる。審査は 2024～2025 年になると思われるが、このタイムスケールですばるをどのように使いたいかな議論をしないと、2020 年代後半の予算に大きく関わりかねない。

大朝：ALMA 2 に好意的な印象持っているようで、ALMA が立ち上がってすぐに検討を始めていたのに比べてすばるは…という印象だった。計画を出せるようにしないと、天文台の中の立場も危ういかもしれない。

大栗：すばる 3 の進め方について提案があれば、ざっくりとしたものでもお聞きしたい。LoI を募集するのも考えられるが、UM までだと期間が短い。

大朝：UM までに提案を募集しなくても、LoI を募集するなどを含めていくつかの案を出し議論の方向性を決めていくのがよいかもしれない。観測所の中から人を割り当て WG を形成するのもよいかもしれない。

宮崎：すばる 2 のように、すばる 3 の枠組みは基本的にボトムアップの意見を基にすべきである。

大朝：実際にすばる 3 が動くときに活躍している人と一緒に検討するのがよいのではないかな。

宮崎：現在すばる 2 で動いているのは外から提案されたもの。同様に、すばるが TMT 時代、TMT を超えた時代にどのように運用されるのがよいかを議論してほしい。リソースが限られるので TMT 時代にすばるをフルで運用を続けることは難しい。すばる 2 の中間審査は今動かしている我々の責任だが、すばる 3 で望遠鏡をどのように使っていきたいかを話せばよいのではないかな。

大朝：すばる 2 やすばる 3 になって実質が大きく変わるわけではないと思うが、外向きの姿勢として戦略を考えていかないといけない。真剣に取り組んでいないとみなされるのはよくないのではないかな。

宮崎：トップダウンよりボトムアップのほうが自然だ。若い人が声を上げられる機会を作っていくのがよいのではないかな。

大栗：HSC や PFS に続く装置を検討するには時間がかかるため、早めに検討を開始する必要がある。ボトムアップで動いていけばよいが、動きが見えない。

宮崎：GLAO は半分ボトムアップである。Ns-IR は、ボトムアップで色々できるようにするため。

大栗：私もボトムアップが良いと考える。誰かが発言すれば刺激にもなるのではないかな。

宮崎：すばる 3 と銘打つとフラグシップを背負うことになりプレッシャーがかかるかもしれない。それよりはすばる 3 にこだわらず、自由に発言できる方がよいかもしれない。

大朝：すばる 3 に始めからこだわらなくてもよいと思う。光赤天連での議論では、今はスペース装置のみが上がっているが、地上望遠鏡としてはすばるの今後の議論が欲しい。若い人に登壇してもらうのがよいのか。

大栗：この人に話してほしい、という人がいれば推薦していただけると有難い。

宮崎：すばる UM だが、地上やスペースに限らず面白そうなことを話す人を呼ぶのがよいかも。

大栗：将来装置のアイデアを持っていそうな人を呼ぶのはどうか。

宮崎：若手で装置をしている人はどうか。

大朝：装置という観点ではすばるや装置を分かっている方はどうか。

大栗：それぞれ 10 分くらい話してもらう感じか。

宮崎：依頼するときにはすばる 3 にアラインしていなくてもよいとは伝えるべき。

大栗：ただすばる UM なので、すばるを何らかの形で使ってもらうのがよいかと思う。

大朝：地方大学からの発表もあるとよいと思う。

大栗：今名前が浮かばなくてもメールなどで提案をお願いする。候補の人に講演を依頼する。すばる 3 と名付けるかは分からないが、すばるの将来について議論セッションを持つ。

松岡：プログラムを組み立てるため、各セッションの時間はどのくらいまでに決まるか知りたい。

大栗：口頭発表の数にもよるかもしれない。

松岡：では今のところは項目だけ挙げて、口頭発表の時間で微調整をするということでしょうか？

大栗：取りまとめ役の人には必要な時間を確認しておく。ToO の時間は SAC で決める。

松岡：日本人の定義のトピックは入れ込むのか？

大栗：入れるべきという強い意見がなければ入れなくてもよいと思っている。他の項目との兼ね合いで組み込むかどうかを決めるのはどうか。

松岡：そのように対応する。

9. その他

【まとめ】

TAC より、S24A の公募の審査が完了し、来週採否の通知が届く予定

- Dual anonymous review への違反に対し、今回は採否通知とは別途メールを送る予定。メール文案は TAC で議論する。
- 次回の SAC で S24A の統計情報について報告をする。

3 月の SAC の日程調整を始める。

【詳細】

大栗：その他議論の項目があれば挙げてほしい。

植村：TAC から報告として、S24A の審査がほぼ完了した。来週には各 PI に採否の通知を送る予定。Dual anonymous review について、まだ 1 割くらいの proposal で違反が見られる。前回も採否通知の中に書いているが、読まれていないのか同じ違反がありベテランの方が多い傾向。今回は違反している人に警告のメールを送ることにした。違反していることと留意点を載せる。今 TAC で違反とみなすボーダーを議論している。特に、プロジェクト名をどこまで載せてよいかの線引きが難しい。最終的には本人が特定されていなければよい。オンラインのガイドラインにも具体的な違反例を載せる予定。メール案は TAC に任せてもらってよいか？

大栗：よいと思う。

植村：それでは TAC で文書を作って送る。

大栗：次回に S24A の公募について統計情報の報告をお願いしたい。

植村：了解した。

大栗：今後の SAC について、1 月・2 月の日程は決まっているが、3 月の SAC 日程調整を始めないといけない。近いうちに調整を始める。

次回は 1/9 JST 開催